



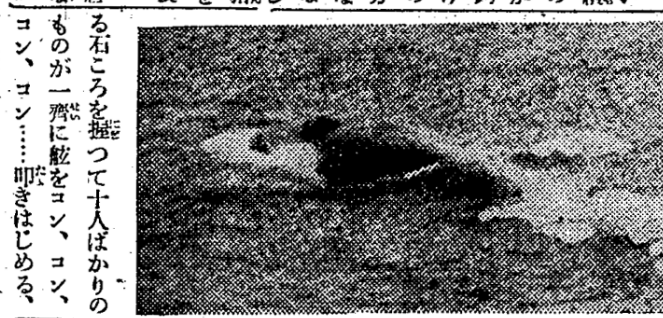
アシカの總攻撃に 膽つ玉を冷やす

船長の機轉で難をのがる 西島の繁殖地踏査

クエツ、クエツ、クエツ
腹のソコにこたえるやうな物凄
い何かの叫び聲が海を響いて二
三、三三……
ありや何だ？
お客さん、あれがトドの聲だ
です、どうやら吾々を發見
したらしい、だが驚くことは
ありません
そこは元、北海の荒海を乗り廻
したと云ふ船長だ、どこまでも
役者が一枚上である、昔、源義
家と云ふ兵法家は雁の飛ぶのを
見て伏兵あるを知つたと云ふが
り、の咆哮三三、ドブ、ドブ

船長はアシカの泣聲一つでその
意味を聞き分けるんだから大し
なものだ、敵が敵なら、こちら
も日本海のことにかけてはさる
もの、アシカの腹背を突いて
前二、三、一氣に穴を
を掘らうと云ふわけ
そこで洞穴から洞穴を掘り抜け
東島の北端を廻つて
「おい、トドのゐる島へつけ
ろ」
エッサ、エッサと二丁船の力一
は、酒ぎに漕いでテンマはする
（と敵前數十間、岩礁の上に
降臨を計つてゐた數十頭のアシ
カは素敵一隊の襲来とばかり驚
ふたためにクワツ、クワツと怒
り、の咆哮三三、ドブ、ドブ

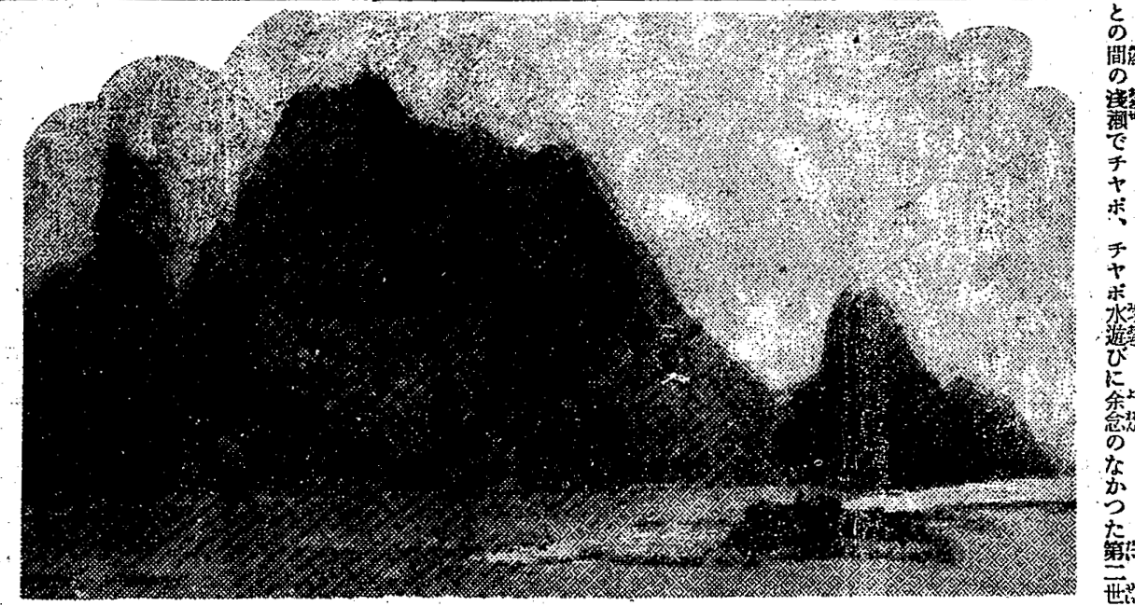
と飛び込む後から、これは又いつ何處からボツカリと頭を出
てしまつた、はじめからその積
りなら船長室にあつた信筒用の
空砲でも持ち出せば良かったが
武器としては有合せの短丁と手鉤
の他何一つない、このちつ掛け
なテンマじやちよいとアシカの
背中へ突上げられたら願復は分
り切つてゐる、えらいことにな
つた、みんな膽を冷やしてどうな
ることかと短丁や手鉤を握りし
めるばかり、一人の水夫は大膽
にも立ち上り、船中の石ころを
掴んで直先のアシカ目掛けて投
げつけようとするば
「投げちやいかん、この儘で居
れば減多に襲撃するもんぢやな
い、その代り怒らしたらひどい



「おい、あそこ島かげにト
ドの子供が探山ゐるぞ」
子供なら恐ろしくなからう、よ
うし、行け！先程の體験で少々
度胸を振った連中はアシカの子
なら組安しと見て西島の北側に
上陸、ここがリヤンゴウアシカ
の繁殖地だ、いきなり飛び込ん
だ岩かげに居る、居る。これは
又なんと可愛らしい犬ころほど
もあるアシカの赤ん坊だ、凡そ
二、三十も居たらうか、岩と岩

「ぞ」
と此時船長少しも驚かす様々と
アシカの襲撃を見送つたのち
「ほかのものは船をウツと叩け
船は構はず突進するんだ」
もうこうなつたら、船長の辭に
頼るより他にない、ソレ叩け、ウ
ツと叩け、船内にころがつてゐ

顔
を見合せる、
全く一時はどうな
るんかと思つたよ
餘りいゝ氣持はしなかつた
とまだ強がりをつけてゐるもの
もあるが、その西日本海の荒海
にはびくともしない連中も、こ
れには膽を冷したものだ



海
中に飛び込む。この
あたりの海には百奇
百練、岩石にでも使つたら優秀
なものになると思はれる石ころ
がいくらでも転がつてゐるので
、好きな連中は石ころ採取で有
卦に入つてゐるうち、とある小
さな洞穴の中にアシカの住居を
發見した、偶然にも此處でアシ
カの母性愛がどんなに強いもの
かを見せつけられて人間社會の
教訓に……と云ふので土産話し
にして持つて歸る
寫眞は波を切つて突進する
アシカとアシカの繁殖地西
島の全景